



カトリック六甲教会 教会報



ナルドの花たより

今日閉幕するいつくしみの特別聖年が、信者たちの心と働きのうちに、実りをもたらし続けますように。

今日、聖なる扉を閉じ、この特別な恵みの1年を過ごせたことを、神に感謝します。

いつくしみの乳香が、信者も、信者でない人も、全ての人に届き、神の国がすでに私たちの間にあることのしるしとなりますように。

教会、人類全体、そして広大な宇宙を主にゆだねます。どうか全ての被造物に主のいつくしみが注がれますように。

観想修道会の修道院の中で、教会と世界のために祈る修道者のことを、感謝のうちに思い起こしましょう。

これからの年月がいつくしみに満ちたものとなることを、どれほど私が望んでいることでしょう。そうすれば全ての人が神の恵みといつくしみを体験できます。（11月22日）

カトリック中央協議会 教皇フランシスコのツイート（邦訳）より

2016 年度第 5 回地区役員会（2016 年 11 月 19 日）議事録

出席者 堤 評議会議長、地区役員

- 1 チャリティーバザー（11 月 13 日）
- 2 教会行事日程と行事担当確認
- 3 2017 年度地区役員
- 4 その他

※ 次回地区役員会 2 月 5 日（日）



<行事報告>

秋の黙想会（10 月 22 日）

秋の黙想会が 10 月 22 日行われた。昨年 5 月に公にされ 今夏に日本語訳が発刊された「回勅 ラウダート・シ」を基にしたアルフレド神父様の講話を聴き、自然・隣人・次世代等への配慮を欠いた私たちのライフスタイルを見直し、環境悪化を食い止めて心豊かに…の実践を求めて祈った。参加者は 60 人余であったが、男性が 1 割であったのは寂しい。

ミサを含めて 4 時間余りの体験で、日々の生き方に必要な振返りと神の呼掛けに応える力を与えられる。次回は多くの方々に参加をお勧めしたいと思います。（宣教部 飯塚）

今回のテーマは「ラウダト・シ」でした。講話というよりも簡単な説明が少しありましたが、祈る時間が計 2 時間くらい、十分にあったのが私には大変有難く思えました。教皇フランシスコが休む暇なく地震や内戦で傷めつけられた世界中を訪問しておられるのを見てもわかるように、事態は極めて深刻です。この傷ついた地球を子孫に残すために、私たちは自分の欲望を抑え、何をどこまで犠牲にできるか、静かに神と対話しなくてはなりません。（高安）

黙想会に預かることができた今秋、9 月から 10 月、11 月と私の周りの大切な方達が傷ついたり、弱っていたり、痛めていたり、また一人の友が永遠の眠りにつきました。祈りは何時でも何処でも祈れると神父様は仰って下さいます。私の中で丁寧に祈りを捧げているだろうか、乱暴な祈りになってはいないだろうか、どこかで感じています。

大聖堂で、小聖堂で、庭の藤棚の下で、そして十字架の道行きを見つめながら祈りました。普段よりは、少しだけ丁寧に、深く祈りに集中できた気がいたしました。

ありがとうございました。

（アンナマリア 宮武）



<行事報告>

ユスト高山右近の足跡を訪ねて（10月29日）

『高山右近の足跡を訪ねて』巡礼旅行

10月29日（土）秋の深まりゆく一日、『ユスト高山右近の足跡を訪ねて』第一回巡礼バス旅行に参加しましたが、その日、山深い右近の郷はすでに紅葉が始まっていました。

私達は総勢 43 人でアルフレド神父様とご一緒に、予定通り 8 時 30 分に京都伏見に向けて出発し、バスの中でこれから訪れる「右近縁の地」について、旅行会社の方に詳しい説明をしていただきました。10 時頃には伏見・月桂冠大倉酒蔵に到着し、記念館の中に入ると「京都市有形民俗文化財」に指定されたという伝統的な桶、樽、櫓等の酒造用具や、明治以降の宣伝ポスター、歴史を物語る商品や貴重な資料の数々が展示されていました。そして、記念館中庭には、伏見



で本陣宿を営んでいた福井源三郎家から寄贈されたという「キリシタン灯籠」が置かれており、その灯籠には十字架を連想させるふくらみがあり、下には確かにマリア像を思わせる彫像が見られました。次に記念館駐車場に出ますと、前田家お預かりの身分でありながら自由に行き来できた右近が、足繁く訪問したであろうと思われるイエズス会「伏見教会」の跡地を見学するため「教会への小路」を歩きました。教会は 1614 年のキリシタン禁教令により破壊されたという事ですが、「教会への小路」だけが今もそのままの形で残されていました。利き酒も終えて、ゆったりした気分で次の訪問地、豊能町余野にある「高山右近夫人の生誕地」へ向かいました。本宅跡地には井戸が残されていましたが、摂津余野城主、黒田公の息女として生まれ 13 歳で右近と結婚した妻ユスタは、忠実に夫に従って強い信仰と愛の内に十字架の道をたどり、彼に相応しい人生の伴侶として歩み続けたということです。次に、豊能町直売所・志野の里へ案内されて、農家直送の採れたてのお野菜を沢山お買物することが出来ました。

その後は、いよいよ「右近生誕の地」豊能町高山へ向かい高山コミュニティセンターに 1 時頃到着し、地元の高山自治会婦人部の方々が手作りして下さった山菜おこわを頂きました。昼食後、江戸時代にキリシタン禁教令の高札が掲示された高札場を見学し、そこから少し歩いて「高山右近生誕地の碑」へ訪れました。ここで 2 年前の春「神戸地区評議会主催の高山右近巡礼」の時は満開の桜に囲まれてミサに与ったことをなつかしく思い出しました。今回は最後に、秋の午後の薄暗い山中へ 15 分程歩いて、延享 3 年と寛延 4 年の銘が有る 2 組の夫婦の墓であると伝えられている「マリアの墓」へも訪れ、300 年程前のキリシタン夫婦の生涯に思いを寄せました。14 時 30 頃には高



山コミュニティセンターに戻り、「右近夫婦の石像」の前に野外ミサの準備がされていましたが、雲行きが怪しくなり急遽コミュニティセンター内で、アルフレド神父様のミサに与かる事が出来ました。

帰りは予定通り 17 時 15 分頃に六甲教会に到着、おかげ様でとても穏やかな一日を過ごすことができました。

この度の日帰り巡礼旅行を企画しご準備下さった皆様に心から感謝申し上げます。

(堤)

<行事報告>

秋の墓参 (11 月 6 日)

11 月 6 日、今にも泣き出しそうな天気の下、教会墓参と共同墓地納骨式を終えることが出来ました。ご遺骨は 7 体で生前刻銘者は 18 名でした。生前刻銘者が多いのは「子供たちに迷惑をかけたくない」という世相の反映でしょう。

そして、アルフレド、高山両神父様によりすべてのお墓に祝福をしていただきました。

共同墓地名板への刻銘は 11 月末日までには出来る予定です。教会事務所にお問い合わせをお願いします。

次回は 2017 年 2 月 26 日(日)10 時ミサ後です。

(墓地委員会 福田)

<行事報告>

チャリティーバザー (11 月 13 日)

2011 年より 2015 年まで 5 年連続で雨天の開催でしたが、今回は快晴の青空のもとで開催できました。爽やかな天候に誘われたのか例年に比べ家族連れが目立ち、子どもたちの楽しそうな声も聞こえてきました。私も藤棚の下で、ビール、焼き鳥、カレー等を楽しみました。



今年のバザーは例年と比較して異なる点がありました。①快晴であったこと ②すべて現金売り(金券による前売りの廃止) ③実働人数減による 2 地区合同の売り場の設置(蚤の市、古着コーナー等) ④蚤の市の入場者数及び数時間制限入れ替え方式(アウトレットバーゲンセール方式) ⑤古着売場スペースの拡充(御聖堂風よけから信徒会館 1F ロビーへの移動)の 5 点です。

すべての現金売りは懸念していた当日の売り場の混乱もなく、これまでの金券の準備及び前売り



の負担軽減になったと思います。また 2



地区合同開催の試みも顔は知っているがあまり交流のなかった他地区の方と親しくなれた良い機会だったと思われます。蚤の市の入場者数時間制限入れ替え方式は、一気に売り場に殺到することなく時間待ちの間に他の売り場に向かうきっかけになったと思います。古着スペースの拡大はハンガースタンド9本の設置が可能になり子ども服、ロングコートのディスプレイが可能になりました。（ハンガースタンドを提供してくださった皆様ありがとうございました。私は古着担当地区でした。）お客さまの中には古着をじっくり選べる余裕ができ、携帯写メールを送信し家族と相談し購入されている方も見受けました。

教会学校のゲームコーナー、中高生喫茶・ポップコーン、豚汁、焼き鳥、フランクフルト、パウロ書店、社会活動部コーナー等の皆様、前日から準備された皆様に感謝いたします、来年も晴天でありますように。
(井川)

【社会活動部からバザーの売り上げ報告】

グループ名	売上
子どもの里	¥ 15.186
東条湖の家	¥ 26.750
ラリグラン	¥ 30.200
ラルシュかなの家	¥ 37.750
アンチラドミニ	¥ 43.200
ラハトガ	¥ 25.000
コンゴ	¥ 36.790
合計	¥ 214.876

先日のチャリティーバザーでは、多くの方がボランティアグループのお店に足を運んで下さりありがとうございました。各グループの売り上げは、それぞれの団体への支援金として使わせていただきます。

(社会活動部)

<行事報告>

聖体授与養成コース（10月10日・11月3日・11月23日）

「聖体授与養成コース」に参加して

今秋三回にわたり聖体授与養成コースを受講しました。グループでの分かち合いを通じて、すでに病者訪問のご奉仕を多年にわたり体験しておられる方々から、そのご苦労や喜びを伺い知ることができました。

人は誰も他人の真の内面を知ることができませんが、最終日に講演をして下さった藤原神父様のお話から、一方向からだけでなく多方向から相手を見、受け入れ、共感し、寄り添うことが大事だと教わりました。ご病人に対し誠実に関わりながら、私達を生かして下さるのはイエス・キリストであること、またその方が共同体の大切な一員であることなどをお伝えできればと思っています。

(沖 裕子)

《各部だより》 各専門部会の活動をお知らせいたします。

📖 小教区評議会

12月11日(日)12:00 評議会

📖 教会学校

12月17日(土) クリスマス会

《お知らせ》 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです。

◆ 社会活動部より ◆

12月5日(月) 9時半 ともしび会 ケーキ作り (イグナチオホールお台所)

12月7日(水) 10時 手芸の集い(第1、第2会議室) どなたでもご参加できます。

12月10日(土) 炊き出し (イグナチオホールお台所)

小野浜グラウンドにて、おじさん達のお話し相手や配食だけでもOKです。

12月18日(日) 10時ミサ後 ふれあい広場 (イグナチオホール)

12月24日(土) 9時半 ともしび会 ケーキ作り (イグナチオホールお台所)

(クリスマスの月なので、ともしび会は12月は2回あります。)

越年・越冬 炊き出し

1月1日(日)、1月5日(木)

東遊園地(神戸市役所南側) 10時~15時30分

神戸地区カトリック教会の当番日です。

お手伝いできる方よろしくお願いします!

(お手伝いされた方にも お雑煮、中華丼が出されます。)



越年、越冬の炊き出しと須磨夜回り会支援のための

クリスマスチャリティコンサート

開催日時: 2016年12月3日(土) 13時

開催場所: カトリック神戸中央教会主聖堂

主催: 神戸地区社会活動委員会

野宿者支援のために多くのかたのご参加をお願い申し上げます。(社会活動部)



第 14 回クリスマスコンサート



開催日時：2016年12月11日(日)13時30分

開催場所：カトリック六甲教会主聖堂

主催：メサイア実行委員会

入場料無料 どなたでもご自由にお入りください。

指揮：エリック・コロソ

曲目：クリスマスキャロル

ヘンデル作曲「メサイア」より



第 58 回神戸市民クリスマス

Caroling in KOBE 「みんなで祝おうクリスマス」

聖句：「羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の話したとおりだったので、神をあがめ、幼子はイエスと名付けられた。」

ルカによる福音書2章20節より

日時：2016年12月16日(金)

メイン会場：カトリック神戸中央教会

入場料：無料。どなたでもご参加いただけます。

プログラム：	1 キャロリング	17:00～18:30	北野コース・元町コース
	2 子どもプログラム	17:30～19:30	入退室随時可
	3 ほっとタイム	18:00～19:15	
	4 祈りと祝福のとき	19:30～20:30	
	5 青年のつどい	20:30～21:30	



カトリック六甲教会「祈りと音楽の集い」

「クリスマス音楽の集い」



講演日時：2016年12月23日(金・祝)14時

場所：カトリック六甲教会 主聖堂

入場料：無料



《 図書室からのお知らせ 》

図書室に入った本

☆今こそ原発の廃止を —— 日本のカトリック教会の問いかけ

日本カトリック司教協議会「今こそ原発の廃止を」編纂委員会 編 カトリック中央協議会 発行
未来世代を含めたすべての「いのち」を守るために

2011年に発表された脱原発司教団メッセージに対する、科学的、哲学的、神学的裏付け。

核エネルギー利用の歴史、原発事故当事国日本の責任、核技術に関する科学的・技術的考察、自然エネルギーの可能性、新たなライフスタイルの提案—— (帯から)

- ※ 日本カトリック司教団は11月11日、メッセージ「原子力発電の撤廃をー福島原子力発電所事故から5年半後の日本カトリック教会からの提言ー」を発表した。2011年11月のメッセージ(上記)に続き、韓国の司教団とも原発の現状や危険性に学び、日本でも専門家による学習会などを重ねてきた。… 今、司教団は原発の危険を「世界のすべての人に知らせ、その撤廃を呼び掛けるほかはない」と述べている。 (カトリック新聞2016年11月20日号)
またこのカトリック新聞同号に、日本カトリック司教団メッセージの全文が掲載されている。

☆せいしよ —— イエスさまのおはなし ドンボスコ社

☆まよなかのたんじょうかい —— 西本鶏介 作 渡辺有一 絵 すずき出版



みんなの広場

クリスマス

12月8日。

「童貞聖マリア無原罪の御孕り」の大祝日、母と弟2人と共に洗礼の恵を頂いたその翌年の朝、ラジオの軍艦マーチに心を躍らせました。それが悲慘な日々の始まりであるとは知らずに。その暗黒の日々が終わったのが「童貞聖マリア被昇天」の大祝日でした。

今、祭日の名称は「無原罪の聖母」となっています。日本語に関する限り祭日の意義は異なっています。

この教会の聖堂は「無原罪の聖母」に献げられています。最初の聖堂の建設が決まったとき、主任司祭であったブラウン神父様から聞かされて喜んだことを覚えています。守るべき祭日でもなく、殆ど平日になるため信徒の関心から遠いようですが、聖母の無原罪はアダムとエバが樂園から追放されるときに神がくださった約束が実現する最初の表れでした。

マリア様の無原罪は人知を超えた神秘だと言えましょう。神学者アキノの聖トマや聖ボナベントゥラも聖母の無原罪を認めませんでした。

12月24日。

ナショナリズムが猖獗を極め、真夜中に耶蘇教の教会に人が集まれば穏やかでは済まないこともあった時代、山陰げの六甲中学校で密かに深夜のミサが捧げられました。数名の生徒と、山麓一帯のこれも少数の信徒が、深夜の空の灯りだけ、ゴロゴロの山道を、各自暖をとるための小さい毛布などを抱えて、合併教室に集まりました。机を後ろに集めて作った空間に仮の祭壇を設け、修道院から持ち出した数個の火鉢だけ、震えながらミサに与りました。

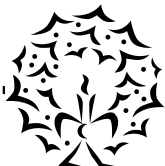
あの夜、天使の歌声を聞いて厩に馳せ参じたのは、喧噪のベトレヘムではなく、少数の下層労働者であった羊飼いだけでした。

戦後、学校の剣道場で盛大に祝われた降誕祭、その夜修道院の聖堂でただ1人、ブンガルテン神父の献げるミサに侍り仰いだご聖体に感じた「クリスマス」は今も鮮明です。

「降誕祭」、「クリスマス」、それは何でしょう。

(ヨハネ 三好)





主の降誕（夜半のミサ） 12月24日(土) 17時、19時、21時

※ 18時30分、20時30分よりキャロル演奏があります。

主の降誕ミサ 12月25日(日) 7時30分、10時

神の母聖マリア（新年のミサ） 12月31日(土) 23時

※ ミサ後、カウントダウンをし、新年を祝います。

1月1日(日) 8時30分、11時



六甲教会受付 年末年始休業のお知らせ

2016年12月29日(木)～2017年1月3日(火)

教会報 1月号の発行は1月1日(日)です。
原稿は12月18日(日)までに教会受付へご提出ください。FAX 及びメールでも受付いたします。

(広報部)

<http://www.rokko-catholic.jp>

カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会

〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21

電 話 078-851-2846

F A X 078-851-9023

発行責任者 アルフレド・セゴビア

編 集 広 報 部